

今後の治水対策のあり方について 中間とりまとめ（案）に関する意見

①氏名		樋渡誠（ヒワタシ マコト）			
②住所		秋田県			
③電話番号		080-1687-1184	メールアドレス		
④職業			⑤年齢		⑥性別
意見該当箇所		⑦御意見			
頁	行	(200字を超える場合は200字以内の要旨も記載)			
20	1	<p>「第5章 複数の治水対策案の立案」について、ダムをはじめとする「治水対策」が26例挙げられていますが、日本古来の伝統治水工法がほとんど無いのが気になりました。輪中堤はその少ない例ですが、粗朶沈床工・柳枝工・木工沈床工など、日本の景観・気候・風土に合った伝統的な治水工法が江戸時代より受け継がれてきたにもかかわらず、明治期以降にはほとんど採用されておられません。あってもイベントがてら部分的に採用される程度。今後は、それら伝統工法の採用箇所を増やすと同時に、技術者を養成することも検討されてはいかかかと思えます。</p>			
29	21	<p>「森林の保全」、森林といってもブナ・ミズナラの原生林もあれば、皆伐してスギを植えたばかりの植林地も含まれるでしょう。ブナとスギの保水力の違いは大きく、やみくもな伐採と針葉樹一辺倒の植林により、森林の治水機能が失われることを危惧します。ここは、保水力の見込まれる広葉樹にしぼってその保全を図り、スギなどの単一種林については、多様な種が混在する混交林への転換を目指すといった記述を望みます。</p>			
37	8	<p>(2) コストについて、私が注目している「成瀬ダム」は現時点で事業費が1500億超ですが、より規模の小さい森吉山ダムで1700億円。どうみても成瀬ダムが1500億円程度で完成するとは思えません。森吉山ダムは当初予算1000億弱だったのが、数年前に1700億に跳ね上がりました。その経緯というものが、実に不透明なのです。すくなくとも事業費が大幅に膨張すると判明した時点で、事業の是非を国民に問うべきであったと思われます。ここは、これだけ予算が膨らむと周知したうえで、それでも事業は続行すべきか否か、国民の審判をあおぎ、「見込む」「評価する」などのあいまいな記述は避け、「明らかにしたうえで中止または続行とする」と、一歩踏み込んだ記述にすべきと思えます。</p>			